

2023 年卒学生の職業意識とインターンシップに関する調査

キャリアス就活 2023 会員 2021 年 5 月調査

キャリアス就活 2023 登録学生（2023 年 3 月卒業予定者）を対象に、インターンシップ等のプログラムへの参加意向や、就職に関する意識などを調査・分析した。長引くコロナ禍に危機感を募らせ、就職活動準備に意欲的な学生の姿勢が明らかになった。

《目次》

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. インターンシップ等への参加意向 | 6. 現時点で興味のある仕事・業界 |
| 2. 参加したいプログラム（種類/形式/時期） | 7. 興味を持ったきっかけ |
| 3. 参加したい内容と期待する成果 | 8. コロナ禍の就活に対する不安 |
| 4. インターンシップ等への参加方針 | 9. オンライン就活への抵抗感 |
| 5. 参加企業を探す手段 | 10. 就職戦線の見方 |

《調査概要》

調査対象 : キャリアス就活 2023 会員
(2023 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生・大学院修士課程 1 年生)

調査時期 : 2021 年 5 月 14 日 ~ 5 月 21 日

調査方法 : インターネット調査法

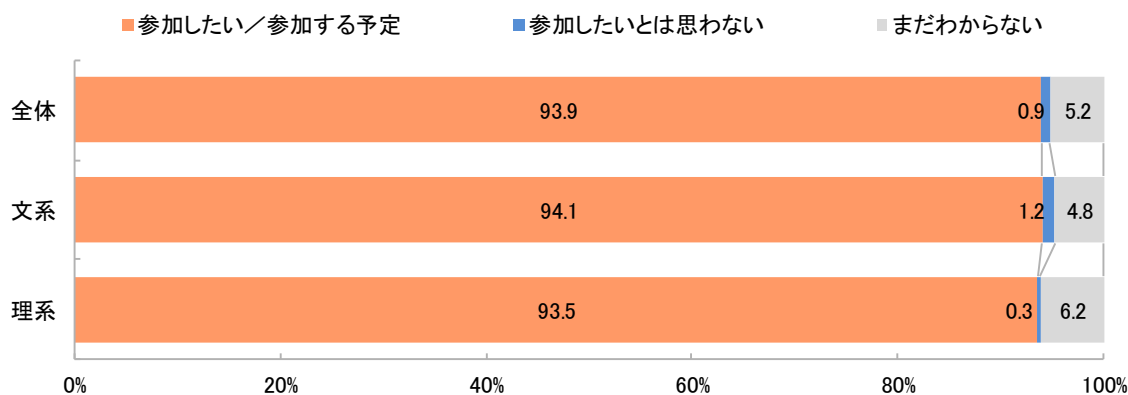
回答者数 : 1,099 人 (文系 774 人、理系・学部生 201 人、理系・大学院生 124 人)

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリアスリサーチ

1. インターンシップ等への参加意向

大学 3 年生（修士 1 年生）の 5 月中旬時点での、インターンシップや仕事研究プログラム等への参加意向を尋ねた。「参加したい／参加する予定」が 9 割を超え（93.9%）、参加意欲の高さが顕著に表れている。

＜インターンシップ等の参加意向＞



※「インターンシップ」= 就業体験を伴う複数日程のもの
「1Day 仕事研究プログラム」= 就業体験を伴う 1 日以内のもの
「業界研究・会社研究プログラム」= 日数にかかわらず就業体験を伴わないもの

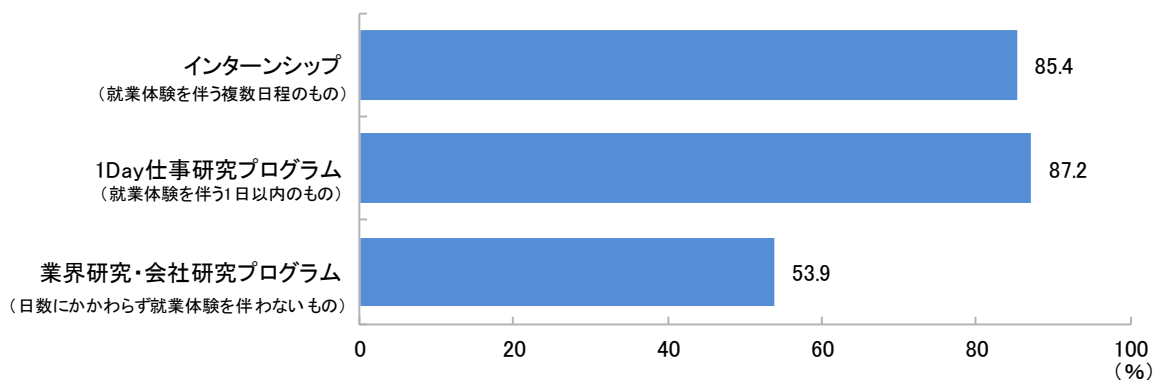
2. 参加したいプログラム（種類/形式/時期）

インターンシップ等に参加意向がある学生（全体の93.9%）に、参加したいプログラムの種類を尋ねた。「インターンシップ」「1Day 仕事研究プログラム」がともに8割強に上り、就業体験を伴うプログラムを希望する学生が大半だ（それぞれ85.4%、87.2%）。一方、就業体験を伴わない「業界研究・会社研究プログラム」は、5割程度（53.9%）。

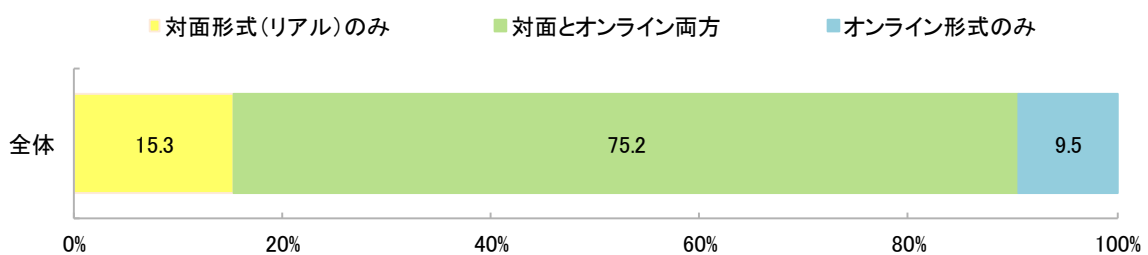
続いて、参加したい形式を尋ねた。「対面とオンラインの両方」への参加を希望する学生が4人に3人に上り（75.2%）、「対面形式（リアル）のみ」「オンライン形式のみ」は、それぞれ1割程度。

参加したい時期は、「8月」「9月」に集中しており（95.3%、87.3%）、現時点では、夏季休暇中の参加を目指している学生が多いようだ。ただし、「12月」～「2月」が5割を超えるなど、早くも冬の参加を視野に入れている学生も少なくない。

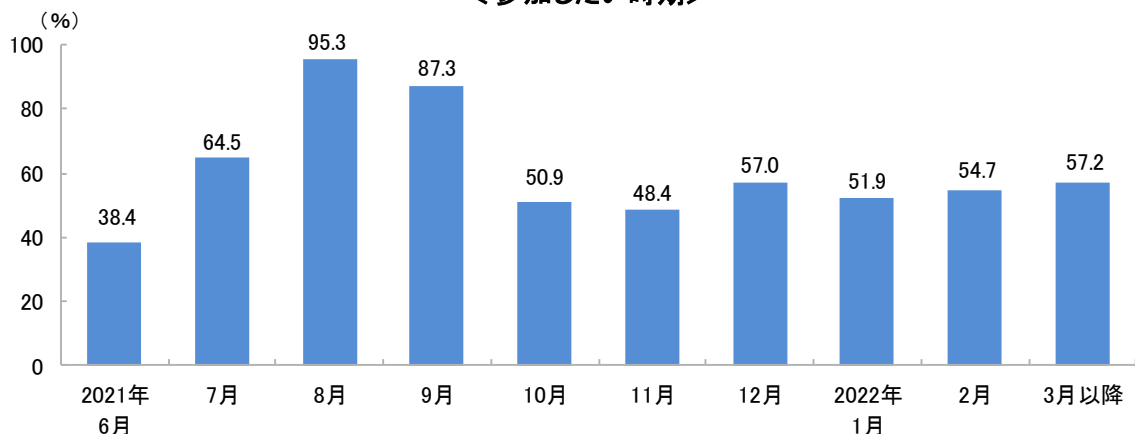
＜参加したいプログラムの種類＞



＜参加したい形式＞



＜参加したい時期＞

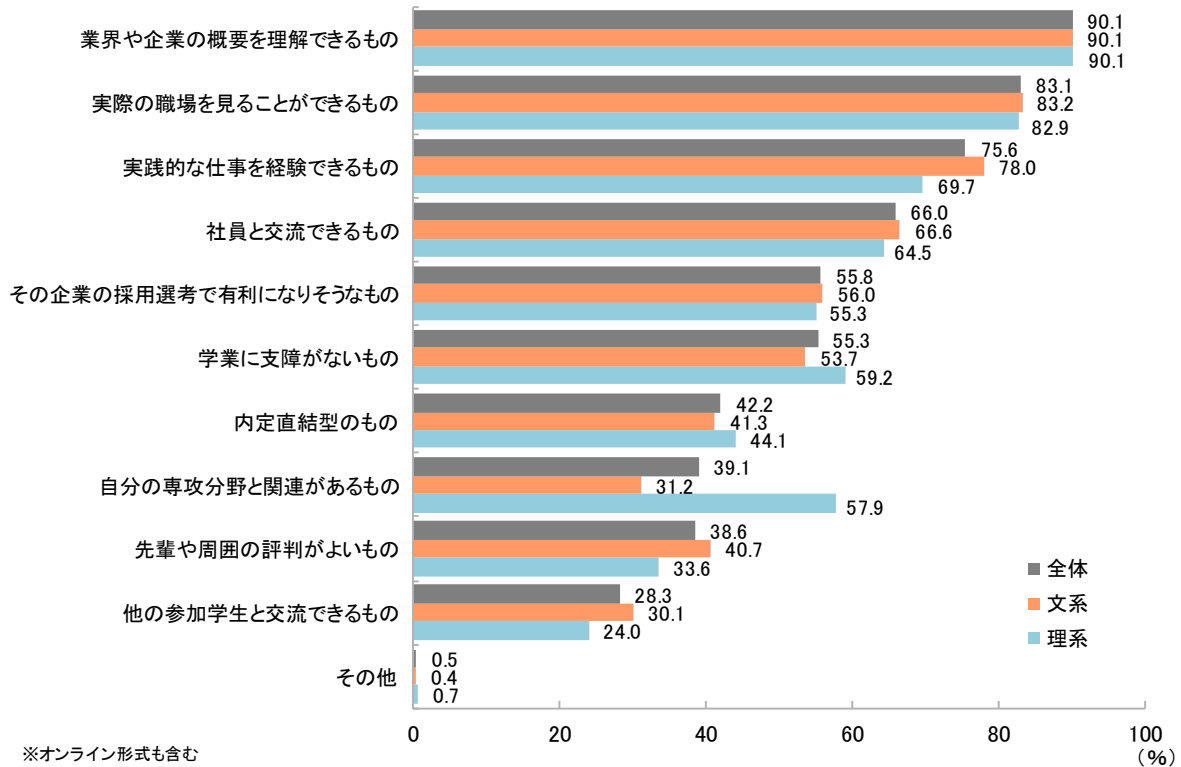


3. 参加したい内容と期待する成果

具体的に参加したいものとしては、「業界や企業の概要を理解できるもの」が最も多く、9割に上る(90.1%)。次いで「実際の職場を見ることができるもの」(83.1%)、「実践的な仕事を体験できるもの」(75.6%)が続く。インターンシップ等のプログラムを通じ、業界や仕事内容について理解を深め、就職先の志望を定めたいという学生の考えがうかがえる。

なお、理系は「自分の専攻分野と関連があるもの」が約6割(57.9%)と、文系の2倍近くに上る。

<参加したいプログラム内容>

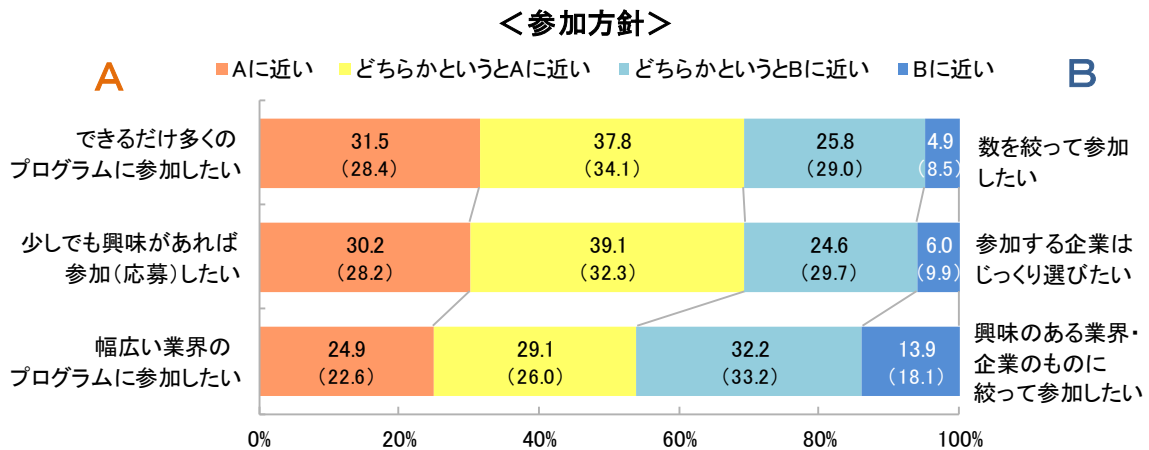


■参加にあたり期待する成果

- 業界研究等が進むこと。また、企業の実情(社風や働きやすさなど)がわかること。 <文系男子>
- 業務内容の理解。自分に合うかどうかだけでなく、新しい自分の発掘。 <文系男子>
- その業界にどれだけ自分が向いているかわかり、どうすればもっと自分が社会に貢献できるかの糸口を見つけること。 <文系女子>
- 実際の現場を見て職場の雰囲気を知りたい。 <理系男子>
- 実践的な内容かつ社員の方との交流があるもの、将来働く自分を想像できるもの。 <文系女子>
- 自分が学んでいることが社会でどのように役立っているのか、その業界で働くことに向いているのかを確認できることを期待しています。 <理系男子>
- 自分の想像している仕事と実際の仕事の違いがあるのかをはっきりさせること。 <文系男子>
- 就職内定に繋がること。結果的に就職内定が出なくとも、自分の経験値として、自分の能力を高めることができること。 <文系女子>
- 学ぶ機会の増加とリーダーシップを鍛える場所としてプログラムに参加したいです。 <理系男子>
- 社会人の方と話す場数を踏んで、スムーズにコミュニケーションを取れるようになりたい。 <理系男子>
- 外部の方(社員や他大学生)との交流ができることが一番の目的。 <理系女子>

4. インターンシップ等への参加方針

インターンシップ等への参加方針について3つの指標で尋ねた。まず、参加数については「できるだけ多くのプログラムに参加したい」が約7割に上り(計69.3%)、「数を絞って参加したい」(計30.7%)を大幅に上回った。「少しでも興味があれば参加したい」も同じく約7割(計69.3%)を占める。前年調査と比べても、それぞれ「A」のポイントが増加しており、積極的な姿勢が鮮明だ。

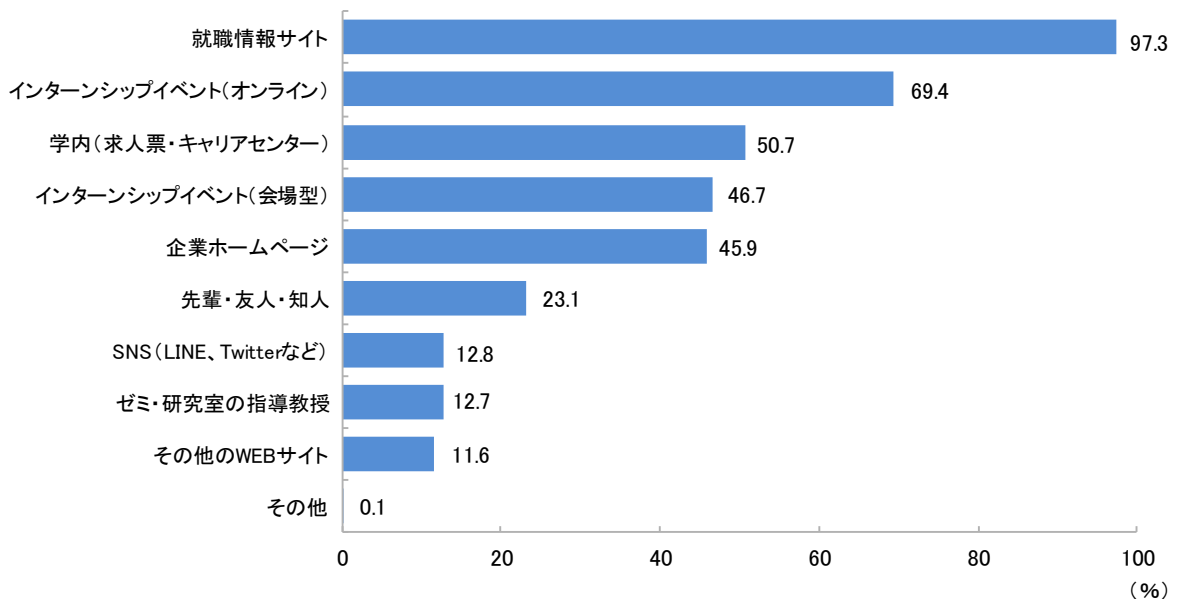


※()内は前年調査の数値

5. 参加企業を探す手段

参加企業を探す手段について、今後の予定を含めて尋ねたところ、「就職情報サイト」が突出して多かった(97.3%)。続く「インターンシップイベント(オンライン)」は7割近くが選んだ(69.4%)。「学内(求人票・キャリアセンター)」「インターンシップイベント(会場型)」「企業ホームページ」までが5割前後で続き、オンラインを中心に様々な手段を活用し、情報収集をしている様子がわかる。

<インターンシップ等の参加企業を探す手段>

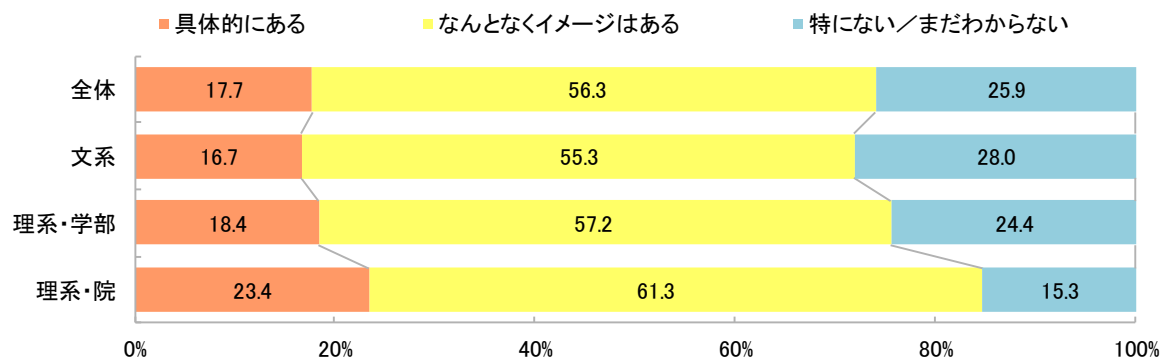


6. 現時点で興味のある仕事・業界

大学3年生（修士1年生）の5月中旬時点で、興味のある仕事や、やりたい仕事の有無を尋ねた。「なんとなくイメージはある」が過半数を占め（56.3%）、「特にない／まだわからない」が4分の1（25.9%）。現段階ではやりたい仕事は明確になっていない学生が大半であり、これから志望を定めていくためにも、業界研究・仕事研究の一環としてインターンシップ等に積極的に参加したいと考えているのだろう。

属性別に見ると、文系より理系において、やりたい仕事のイメージを持っている学生が多い。

＜現時点で興味のある仕事・やりたい仕事の有無＞



現時点で興味のある業界を、10分類の中から3つまで選んでもらった。最も多いのは「メーカー」（52.4%）で、いずれの属性でも一番多い。特に理系でポイントが高く、学部生で60.2%、大学院生では8割超と突出している（83.1%）。

理系の次点は、学部生・院生ともに「IT・情報処理」（39.8%、43.2%）。文系は2位「サービス業」（44.0%）、3位「商社」（34.3%）の順だが、比較的分散している。

＜現時点で興味がある・働いてみたいと思う業界＞

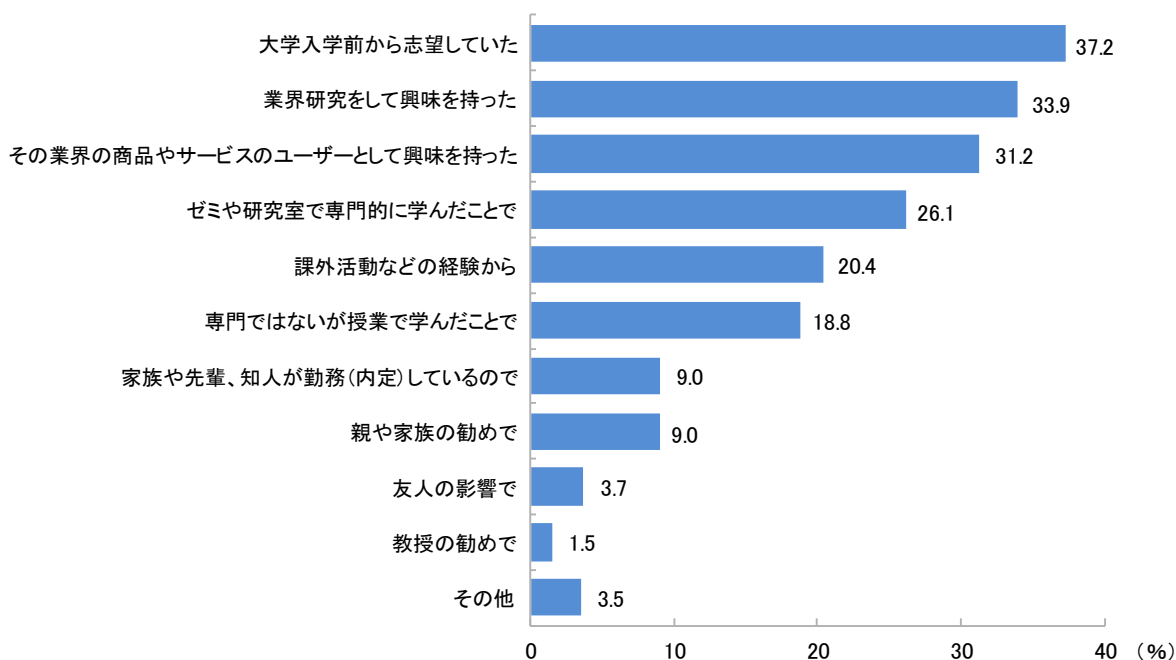
		※3つまで選択 (%)						
全体		文系		理系・学部		理系・院		
1	メーカー	52.4	メーカー	44.8	メーカー	60.2	メーカー	83.1
2	サービス業	35.7	サービス業	44.0	IT・情報処理	39.8	IT・情報処理	43.2
3	情報（通信・マスコミ）	27.6	商社	34.3	サービス業	24.4	エネルギー	21.2
4	商社	26.6	情報（通信・マスコミ）	30.1	情報（通信・マスコミ）	23.3	情報（通信・マスコミ）	20.3
5	IT・情報処理	25.5	官公庁・団体	22.2	官公庁・団体	20.5	官公庁・団体	10.2
6	官公庁・団体	20.4	金融	21.7	エネルギー	14.2	商社	8.5
7	金融	17.4	IT・情報処理	18.5	商社	10.2	運輸・倉庫	6.8
8	エネルギー	9.0	流通	10.9	金融	10.2	サービス業	5.9
9	流通	9.0	運輸・倉庫	5.5	流通	5.1	金融	4.2
10	運輸・倉庫	5.3	エネルギー	5.4	運輸・倉庫	3.4	流通	4.2

7. 興味を持ったきっかけ

現時点で興味のある仕事や業界について、そのきっかけを尋ねた。最も多いのは「大学入学前から志望していた」で37.2%。3番目には「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」(31.2%)が入り、もともと知っていた分野に興味を持つ学生が多い。これからインターンシップへの参加や、業界研究を進めていく中で、志望業界や就きたい仕事が変わることも推測される。一方で、2番目の「業界研究をして興味を持った」も3割を超えており(33.9%)、すでに業界研究を始めた学生が少なくない。

なお、属性別で差が見られ、文系では「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」(35.6%)が最も多い。理系・学部生では「大学入学前から志望していた」が5割を超える(52.3%)。理系・院生では、「ゼミや研究室で専門的に学んだことで」が約7割(72.3%)に上り、研究分野の専門性を生かした就職を考える学生が多いことがわかる。

<その仕事・業界に興味を持ったきっかけ>



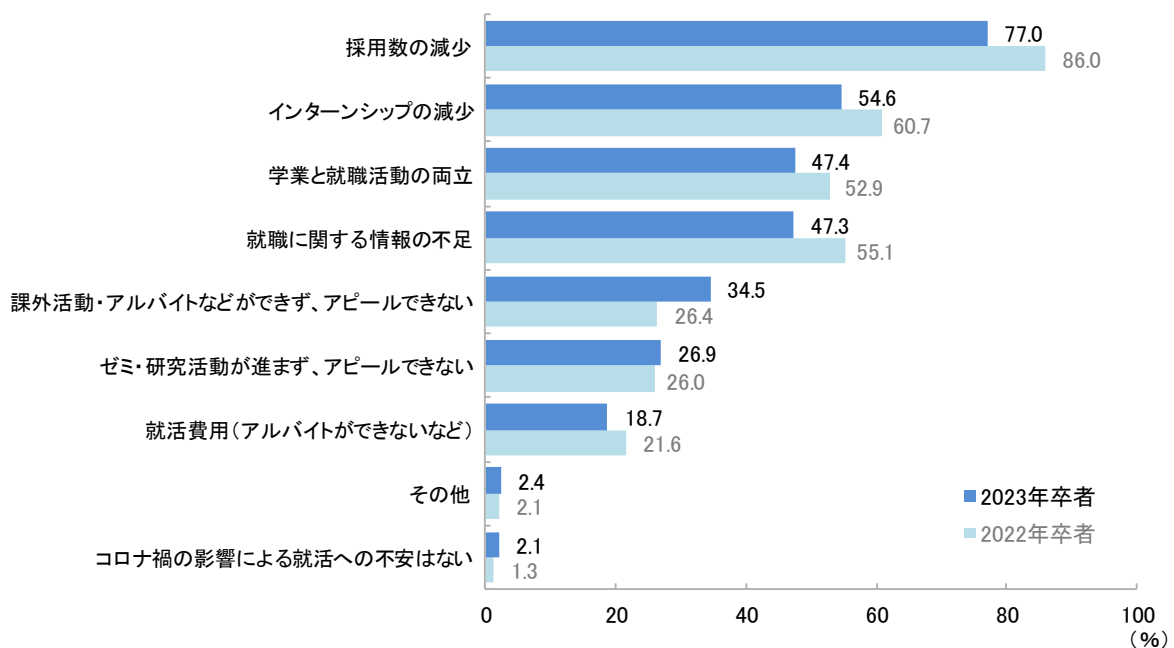
	全体	文系	理系・学部	理系・院
1 大学入学前から志望していた	37.2	32.9	52.3	38.7
2 業界研究をして興味を持った	33.9	35.2	27.8	36.1
3 商品やサービスのユーザーとして興味を持った	31.2	35.6	22.7	19.3
4 ゼミや研究室で専門的に学んだことで	26.1	16.9	29.0	72.3
5 課外活動などの経験から	20.4	24.6	13.6	7.6
6 専門ではないが授業で学んだことで	18.8	18.0	23.9	16.0
7 家族や先輩、知人が勤務(内定)している	9.0	8.6	5.7	16.0
親や家族の勧めで	9.0	9.8	8.5	5.0
9 友人の影響で	3.7	3.7	2.8	5.0
10 教授の勧めで	1.5	1.1	1.7	3.4
11 その他	3.5	3.4	6.3	0.0

8. コロナ禍の就活に対する不安

今後コロナ下で就職活動を行っていくことへの不安について尋ねた。最も多いのは「採用数の減少」(77.0%)。8割近くに上り圧倒的に多い。次いで「インターンシップの減少」が約5割(54.6%)、「学業と就職活動の両立」(47.4%)、「就職に関する情報の不足」(47.3%)が続く。前年調査と比較すると、多くの項目でポイントが減少したものの、「コロナ禍の影響による不安はない」はわずかに2.1%にとどまり、様々な不安を抱えていることがわかる。

「課外活動・アルバイトなどができず、アピールできない」は、前年より8.1ポイントと大幅に増加。オンライン主流の学生生活も2年目となり、長期にわたり思うような学生生活を送れていないことが、就職活動にも影響するのではないかと不安を感じる学生も少なくないようだ。

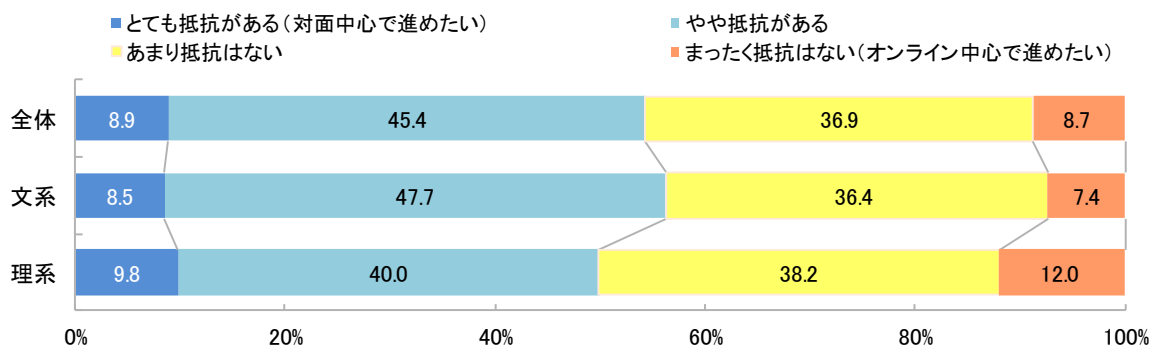
＜コロナ禍の就活について不安なこと＞



9. オンライン就活への抵抗感

この先、もしオンライン中心で就職活動が進んでいくと想像したら、どのように感じるかを尋ねた。「とても抵抗がある(対面中心で進めたい)」は1割未満だが(8.9%)、「やや抵抗がある」は4割強に上り(45.4%)、合わせると半数を超える(計54.3%)。ミスマッチを防ぐためにも、対面での接点が必要だという意見も多く挙がった(コメントは8ページに掲載)。

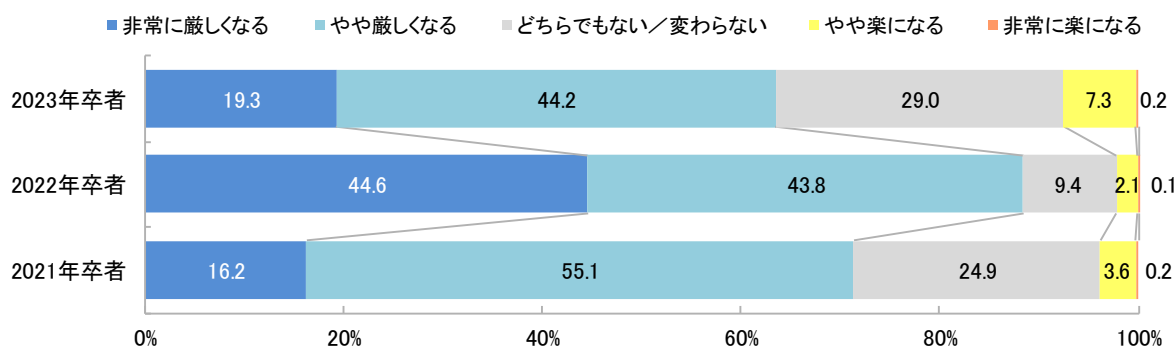
＜オンライン中心で就活が進んでいくことへの抵抗感＞



10. 就職戦線の見方

自分たちの就職戦線が1 学年上の先輩たち(2022 年卒者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」(19.3%)、「やや厳しくなる」(44.2%)を合わせると、6割を超える(計63.5%)。前年調査と比べると、「非常に厳しくなる」は半減したものの(44.6%→19.3%)、「非常に楽になる」「やや楽になる」の合計は1割にも満たない(計7.5%)。コロナ禍の収束時期が見通せない中で、厳しい戦線を予想する学生が大半だ。

<就職戦線の見方>



■ コロナ禍の就活に対する不安

- コロナ禍で企業の売り上げが減ってしまい、なかなか採用されないんじゃないかと思います。 <文系男子>
- 特に人気が集まるような業界は、倍率が上がり、諦めざるを得ないのではないかと。また、自分の希望する業界から求人が出ないのではないかとということ。 <文系女子>
- 周りがどのような状況かわからず不安。コロナの影響でインターンシップやイベントに参加しにくい。 <文系女子>
- 思うように学生時代ならではの経験を積むことができていない。 <文系男子>
- ゼミがオンライン化したことで、土日にもゼミ活動が入ってしまったため、インターンシップなどの就活行事と被ってしまう。 <文系女子>
- 研究活動や学会参加の予定が立てづらく、就職活動の予定も具体的に立てにくい。 <理系女子>
- 地方住みなので就活費用がかかることは承知していたが、このままアルバイトができないままだと厳しい。 <理系女子>

■ オンライン就活への抵抗感

【抵抗がある（対面中心で進めたい）】

- 面接などがオンラインで行われる場合、ネット環境で差がついたり、オンラインに特化した対策を講じなければならぬから。また、会社の雰囲気などを感じられないまま就職し、失敗してしまうのではないかと不安である。 <文系女子>
- オンラインだと実際の仕事を経験しにくいので、入社してからギャップができるのではと思う。 <文系男子>
- PCの画面越しだと自分の良さをアピールできる自信がない。 <理系男子>

【抵抗はない（オンライン中心で進めたい）】

- オンライン授業でパソコンをだいぶ使い慣れてきたから。 <文系女子>
- 移動時間がなくなることで、研究の合間に説明会や選考に参加することも可能になるため。 <理系女子>
- 交通費がかからず、またリラックスした状態で就活に挑めるため。 <文系男子>